

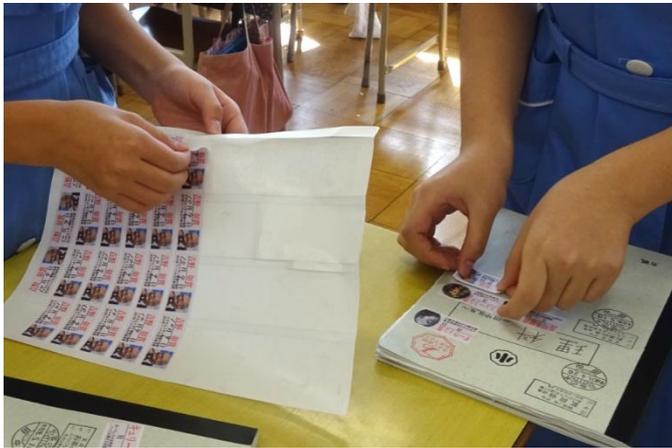
「ノーベル化学賞(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

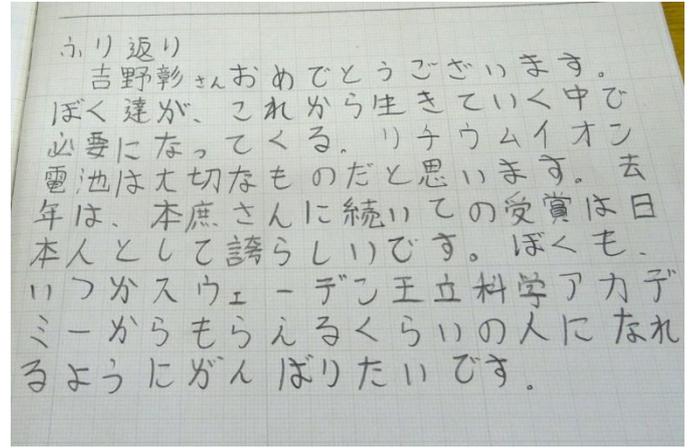
「賞シール」は、A4用紙に44枚印刷できる「インクジェット用シール用紙」に印刷している。授業の最後に「授業の振り返り」を書いたあと、私が点検して、シールを1枚もらうことになっている。シールには科学史上の重要人物や、日本人のノーベル賞受賞者の顔写真と、主要業績が印刷されている。「ああ、この人知ってる」「へえ、こんな人いたんだ」と、科学者への興味を深めるのにも役立っているように思う。



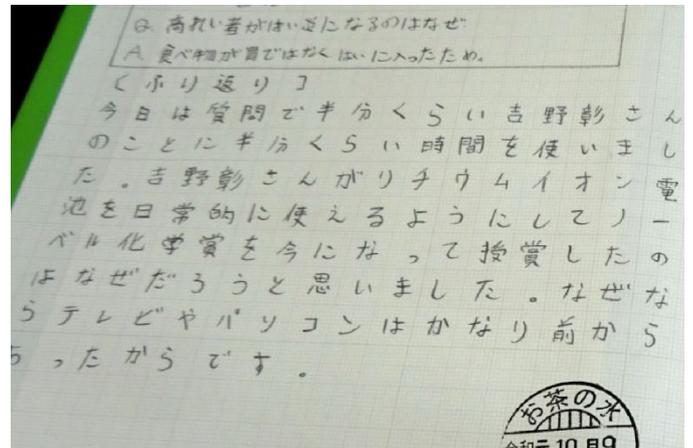
時間節約の為、シールは子どもたち自身がシートからはがして、ノートに貼るようにしている。ノートの本文(振り返り文のあと)に貼る子どもが多いが、中には表紙や裏表紙に「コレクション」している子どもも見られる。日本のノーベル賞受賞者の名前と業績は、すべて覚えてしまった子どももいる。



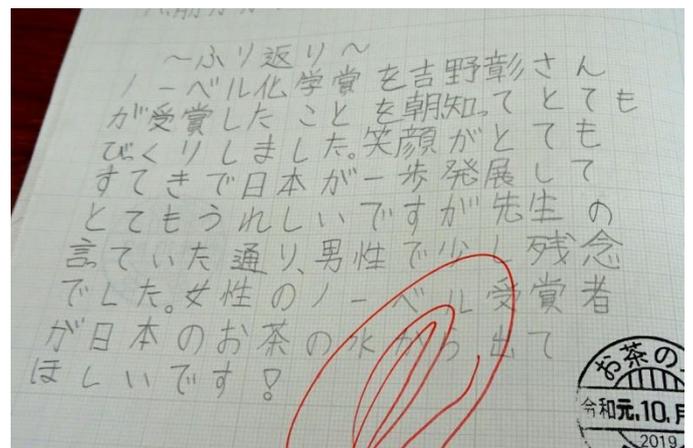
この子どもは、吉野博士のシールを表紙の真ん中に貼って、実に誇らしげだった。



この子どもは、面識もない吉野博士に賛辞の言葉を贈っている。前回受賞の本庶博士の名を正しく書いているところ、ノーベル賞の授与母体である「スウェーデン王立科学アカデミー」の名称も正しく書いているところがすばらしい。



この子どもは、業績が認められて受賞するまでに、非常に時間がかかることへの疑問を書いている。



この日の授業の振り返りには、吉野博士のことがたくさん書かれていた。この女兒の文では、「笑顔がとてもすてき」「日本の女性もノーベル賞をとってほしい」という願いがすばらしい。この子どもは将来、自分が受賞するかも知れない。